

ＰＣＬ工法技術マニュアル（平成20年4月） 正誤表

ＰＣＬ工法技術マニュアルの正誤情報につきましては、恐れ入りますが下記のＰＣＬ協会ホ-ムペ-ジにてご確認をお願いいたします。

トップペ-ジ→NEWS→ログイン画面の「第1回 技術マニュアルの正誤表」をクリック願います。ＰＣＬ協会ホ-ムペ-ジアドレス <http://www.pcl-kyokai.com/>

正誤回数 通知年月日	頁	名称	誤	正
第1回H21.7	16	第3章 3.6断面決定 反力係数（バネ定数）算 定例	上から9行目～ B：載荷幅(m) 注）裏込め注入時の載荷幅は、各注入高さとする。 E₀：材料の弾性係数 P C L 協会で行ったモルタルとエアモルタルの物性試験では 初期材令（材令1～2日）におけるそれらの弾性係数は、 モルタルの場合E₀ = 1,900N/mm²、 エアモルタルの場合E₀ = 150N/mm²の結果を得た。 α：反力係数の推定に用いる係数―軸圧縮試験より求めた場合は α=4 算定例）モルタルの場合（カッコ内数値はエアモルタルの場合） 既設裏込め高さを1.5mとすると $K = 1/0.3 \times \alpha \times E_0 \times (B/0.3)^{-3/4}$ $= 1/0.3 \times 4 \times 1,900,000(150,000) \times (1.5/0.3)^{-3/4}$ $= 7,576,400(598,100) \text{ kN/m}^3$	上から9目～ B：載荷幅(m) 注）裏込め注入時の載荷幅は、各注入高さとする。 E₀：材料の弾性係数 P C L 協会で行ったモルタルとエアモルタルの物性試験では 初期材令（材令1～2日）におけるそれらの弾性係数は、 モルタルの場合E₀ = 1,900N/mm²、 エアモルタルの場合E₀ = <u>20</u>N/mm²の結果を得た。 α：反力係数の推定に用いる係数―軸圧縮試験より求めた場合は α=<u>1</u>（モルタルの場合） α=4（エアモルタルの場合） 算定例）モルタルの場合（カッコ内数値はエアモルタルの場合） 既設裏込め高さを1.5mとすると $K = 1/0.3 \times \alpha \times E_0 \times (B/0.3)^{-3/4}$ $= 1/0.3 \times \underline{1}(4) \times 1,900,000(\underline{20,000}) \times (1.5/0.3)^{-3/4}$ $= \underline{1,894,100}(79,700) \text{ kN/m}^3$ 説明） 裏込め材物性値試験結果を再度検証した結果、エアモルタルはE₅₀とE₀の値に一般的な地盤と同様な開きがあるのに対して、1:3モルタルはE₅₀とE₀の値はほぼ同じ値を示し一般の構造材料と同様である事を確認した。 そこで、材料の弾性係数(E₀)と反力係数の推定に用いる係数(α)の値を見直した。
資-5		技術資料1:設計計算例 3.設計バネ定数の算出	修正箇所） 設計バネ定数の算出において、裏込め材の弾性係数(E₀)と反力係数の推定に用いる係数(α)の値およびそれに伴う反力係数の計算値が修正箇所となります。	説明） 本修正箇所の成果につきましては、修正箇所多数のため”文章の差替”をお願いいたします。 差替書類につきましては、”P C L 協会ホ-ムペ-ジ”よりダウンロード願います。
資-9 ～11		5.4 応力度計算	修正箇所） 上記数値修正に伴う断面力と断面算定結果数値が修正箇所となります。	
資12 ～14		技術資料2: 裏込め材物性値試験結果	修正箇所） エアモルタルの設計採用値が修正箇所となります。	説明） 物性値試験結果表にE₅₀数値を追加し、”6.まとめ”に試験結果内容の説明と修正となった設計採用値を示しました。 本修正箇所の成果につきましては、修正箇所多数のため”文章の差替”をお願いいたします。 差替書類につきましては、”P C L 協会ホ-ムペ-ジ”よりダウンロード願います。